

ハートフルなんぶ

2010. 4月号 Vol.138

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292 - 0143

FAX (026) 292 - 0559

<http://library.nagano-ngn.ed.jp/>

移動図書館からのお知らせ

17コースの次の巡回場所が、
施設解体のため、変更になりました。

〔旧〕JAグリーン長野旧稲里経済センター



〔新〕JAグリーン長野更北支所北側駐車場

第52回
こどもの読書週間
4月23日から
5月12日まで



予約の多い本

- 『1Q84』(BOOK1) 村上春樹／著 新潮社
『1Q84』(BOOK2) 村上春樹／著 新潮社
『新参者』 東野圭吾／著 講談社
『カッコウの卵は誰のもの』 東野圭吾／著 光文社
『神様のカルテ』 夏川草介／著 小学館
『Nのために』 湊かなえ／著 東京創元社
『キケン』 有川浩／著 新潮社
『ほかならぬ人へ』 白石一文／著 祥伝社
『まほろ駅前番外地』 三浦しをん／著 文藝春秋
『ヘヴン』 川上未映子／著 講談社

2010年は
「国民読書年」です



新刊案内



- 『赤ちゃんと絵本をひらいたら』 ブックスタート／編著 岩波書店 <<019ア>>
『人は愛するに足り、真心は信ずるに足る』 中村哲／著 沢地久枝／聞き手
岩波書店 <<333ナ>>
『絵が伝える子どもの心とSOS』 末永蒼生／著 講談社 <<371.4ス>>
『ビオトープづくり実践帳』 養父志乃夫／著 誠文堂新光社 <<519ヤ>>
『山歩きの基本がわかる本』 川名匡・菅野由起子／共著 山と溪谷社 <<786カ>>
『冥談』 京極夏彦／著 メディアファクトリー <<Fキ>>
『幸せ上手』 渡辺淳一／著 講談社 <<914.6ワ>>

今月のテーマ「日本の神様とお祭り」

- 『面白いほどよくわかる日本の神様』 田中治郎／著 山折哲雄／監修
日本文芸社 <164タ>
- 『「神社と神さま」がよくわかる本』 島崎晋／著
PHPエディターズ・グループ <170シ>
- 『諸國一之宮めぐり』 鹿野島孝二／著 彩流社 <175カ>
- 『ダヤンのお祭りの本』 池田あきこ／著 中央公論新社 <386イ>
- 『祭りの歳時記』 新人物往来社 <386マ>
- 『いろどり古事記』 中山千夏／著 自由国民社 <913. 2イ>



喧嘩した神様

小学校に入学した私に父が買ってきた「日本の神話」は、偕成社版児童名作全集の一冊で、初めて持つハードカバーだったせいか、カバー絵、表紙のデザイン、緑色の背表紙などの細部まで今でも印象に残っている。有名なのはヤマタノオロチ、因幡の白兔、海彦山彦など、子供心に「子供向けだなあ」と安心して読めた。が、子供心のもう一方でこの本の肝だと思えたのは、神話の端緒神産み時代の話。

黄泉の国に下り死者として横たわる妻神イザナミの体各所に小さい雷神が居座っている、その挿絵がうす気味悪い。死姿を見られ怒ったイザナミが夫イザナギを追いかけて黄泉比良坂（よもつひらさか）に至る。塞いだ大岩を挟んで夫婦がとことん罵り合い、そして永遠に別れる場面の凄まじさ。神様なのに死んだり、怒ったり、喧嘩して絶交してしまう。通っていた仏教系幼稚園では、悟ったり、教え導いたりのお釈迦様に馴染んでいたから、この神々の荒っぽい振る舞いや激しい感情表現が新鮮で、魅かれたのかもしれない。

この夫婦が産み出した神様を始め、日本の神様は八百万と言われる。神話の英雄、土地でながく信仰されてきた神、山川草木の一つ一つに宿る魂、またそれぞれに奉げる祭礼行事の多彩さ。複数の宗教を違和感なく暮らしに取りこむのが日本人の特徴とされるのは、節操がないというよりも、あらゆる自然や物事に神様を感じることができる精神の豊かさだと思いたい。（寄稿：とど）

5月号のテーマ：お茶

6月号のテーマ：エッセイ

テーマにまつわる思い出やエピソードなどの投稿をお待ちしています。前月15日までに南部図書館窓口までお寄せ下さい。

南部図書館カレンダー

は休館日です

開館時間 10:00~18:00

2010	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
4月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

2010	日	月	火	水	木	金	土
							1
5月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					